

公 開
資料 3-2

第 3 4 3 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項②

令和 5 年 4 月 1 9 日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 委員会関係						
提案2	(分野別委員会)分科会委員の決定(追加1件)	第一部長	5	分野別委員会における分科会委員の追加を決定する必要があるため。	第一部長	内規18条
2. 地区会議関係						
提案3	地区会議構成員の所属地区の変更を決定すること	科学者委員会委員長	7	地区会議構成員から勤務地等の所在する地区会議以外の地区会議への所属変更の申出があったため。	望月副会長	地区会議運営要綱第5
3. 国際関係						
提案4	令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議 (1)代表者の派遣の決定 (2)外国人招へい者の決定	会長	9	令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定するとともに、外国人招へい者を決定する必要があるため。 ※国際委員会4月18日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会(1)3月8日(2)4月6日承認	高村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規55条
4. その他のシンポジウム等						
提案5	公開シンポジウム「健康・長寿のための食品と栄養の科学」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	11	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同IUNS分科会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、台湾栄養学会、韓国食品栄養科学会 日時：令和5年5月13日(土)9:00～11:30 場所：札幌コンベンションセンター(北海道札幌市白石区)(ハイブリッド開催) ※第二部承認	—	内規別表第2
提案6	公開シンポジウム「人間・AI共創時代における価値創造経営教育」の開催について	経営学委員会委員長	15	主催：日本学術会議経営学委員会AI・IT等の普及による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会 日時：令和5年6月4日(日)13:30～17:00 場所：早稲田大学小野記念講堂(27号館地下2階)(東京都新宿区) ※第一部承認	—	内規別表第2
提案7	公開シンポジウム「最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答」の開催について	地球惑星科学委員会委員長	17	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会国地球惑星科学際連携分科会、地球惑星科学委員会地球人間圏分科会 日時：令和5年6月11日(日)13:00～17:05 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2

提案8	公開シンポジウム「次世代型元素戦略を考える(仮)」の開催について	化学委員会委員長	19	主催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会 日時：令和5年6月15日(木)13:10～16:50 場所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所研究棟201号室(愛知県岡崎市)(ハイブリッド開催予定) ※第三部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム「安全工学シンポジウム2023」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	21	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和5年6月22日(木)10:00～23日(金)16:50 場所：日本学術会議講堂、他5会議室(ハイブリッド開催) ※第三部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム「コロナ感染症をめぐる記録と記憶—何を、誰が、どう残すか—(第28回史料保存利用問題シンポジウム)」の開催について	史学委員会委員長	25	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会 日時：令和5年6月24日(土)13:30～17:30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案11	日本学術会議中部地区会議学術講演会『食と健康の最前線』の開催について	科学者委員会委員長	29	主催：日本学術会議中部地区会議 日時：令和5年7月7日(金)13:00～16:00(予定) 場所：福井県立大学永平寺キャンパス(福井県吉田郡永平寺町)(ハイブリッド開催) ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム「法科大学院・法曹養成・法学研究者をめぐる学位と資格試験—いわゆる3+2制度導入を契機として(仮)」の開催について	法学委員会委員長	31	主催：日本学術会議法学委員会法曹養成と学術法制分科会 日時：令和5年7月22日(土)13:00～18:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム「歴史学の「国際化」とは何か」の開催について	史学委員会委員長	35	主催：日本学術会議史学委員会国際歴史学会等分科会 日時：令和5年7月23日(日)13:30～17:20 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム「第13回形態科学シンポジウム」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	37	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会 日時：令和5年8月19日(土)14:00～17:05 場所：名古屋市立大学病院大ホール(愛知県名古屋市)(ハイブリッド開催) ※第二部承認	—	内規別表第2
提案15	日本学術会議東北地区会議学術講演会「資源をめぐる新しい情勢および鉱山開発地域との対話」(仮題)の開催について	科学者委員会委員長	39	主催：日本学術会議東北地区会議 日時：令和5年9月2日(土)又は9日(土)13:00～16:30 開催方式：オンライン開催(後日オンデマンド配信予定) ※科学者委員会承認	—	内規別表第2

5. 後援

提案16	国内会議の後援をすること	会長	41	<p>以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回 JACI/GSC シンポジウム ・Japan Open Science Summit 2023 (JOSS2023) 	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	----	-----------------

6. その他

	件名	資料(頁)
参考	<p>今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年5月11日(木) 14:30～開催。</p>	43

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（追加1件）

（心理学・教育学委員会乳幼児発達・保育分科会）

氏名	所属・職名	備考
小林 哲生	NTTコミュニケーション科学基礎研究所上席 特別研究員	連携会員

【設置：第306回幹事会（令和2年12月24日）、追加決定後の委員数：13名】

地区会議の構成員の変更について

氏名	勤務地等が所在する地区会議	所属を希望する地区会議	備考
佐藤 嘉倫	近畿地区	東北地区	第一部会員

現職名：京都先端科学大学人文学部学部長・教授（令和5年4月より）

変更理由：東北地区における地区会議活動を継続するため

（参考）

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

〔平成17年10月4日〕
日本学術会議第1回幹事会決定

（各地区の構成員）

第5（前略）各地区の構成員は、原則として当該地区に勤務地（勤務地がない場合は居住地）を有する会員及び連携会員とする。ただし、会員又は連携会員は、申し出により、科学者委員会及び幹事会の議を経て、所属地区を変更することができる。

令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地／開催形 式	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース総会 (Assembly)	6月29日 ～ 6月30日	2日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教 授)	第1区分 Governing Council メンバー (ファンダー代表) ※オンライン出席予定
2	フューチャー・アース総 会 (Assembly)、 Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2023 及びフュー チャー・アースハブ事務 局長会議	6月25日 ～ 6月30日	6日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	春日 文子 連携会員 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバル ヘルス研究科教授、プラネタリーヘル ス学環教授)	第1区分 日本ハブ事務局長 ※現地出席予定
3	フューチャー・アース総 会 (Assembly) 及び Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2023	6月26日 ～ 6月30日	5日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	谷口 真人 連携会員 (人間文化研究機構総合地球環境学研 究所副所長・教授)	第1区分 日本ハブ・ファンダー代表 ※現地出席予定
4	フューチャー・アース総 会 (Assembly)、 Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2023 及び Health-KAN 会合	6月26日 ～ 6月30日	5日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	渡辺 知保 連携会員 (長崎大学プラネタリーヘルス学環長、 大学院熱帯医学・グローバルヘルス研 究科教授)	第1区分 日本ハブ・ファンダー代表 ※現地出席予定

※令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和5年2月22日日本学術会議第339回幹事会決定）
に基づく区分

令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への外国人招へいについて

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	招へい候補者名 役職 (国名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース総 会 (Assembly) 及び Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2023	6月26日 ～ 6月30日	5日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	Siwatt Pongpiachan Professor, School of Social and Environmental Development, National Institute of Development Administration (タイ)	National Committee (Thailand) メンバー ※現地出席予定
2	フューチャー・アース総 会 (Assembly) 及び Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2023	6月26日 ～ 6月30日	5日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	Kuaanan Techato Assistant Professor・Lecturer, Research and Academic Service, Faculty of Environmental Management, Prince of Songkla University (タイ)	National Committee (Thailand) メンバー ※現地出席予定
3	フューチャー・アース総 会 (Assembly) 及び Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2023	6月26日 ～ 6月30日	5日	パナマ市 (パナマ共和国) / ハイブリッド形式	Yulia Sugandi Expert Fellow, Center for Transdisciplinary and Sustainability Sciences IPB University (インドネシア)	Low/Middle Income Country Expert ※現地出席予定

公開シンポジウム

「健康・長寿のための食品と栄養の科学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同 IUNS 分科会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、台湾栄養学会、韓国食品栄養科学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）5月13日（土）9：00～11：30
5. 場 所：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市白石区東札幌6条1-1-1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

国際栄養科学連合（IUNS: International Union of Nutritional Sciences）は、1948年に、栄養科学における研究ならびに学術情報の交換をすることを主な目的として設立された組織であり、約4年に1度、国際栄養学会議（ICN）を開催している。令和3年（2021年）9月にICNを東京で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和4年（2022年）12月に延期し、112カ国から約3,500名が参加して、日本学術会議との共同主催で、成功裡に終了した。国内外での栄養に対する関心をさらに高め、アジアにおける国際連携を深め、人々の健康の増進に寄与することを目的として、公開シンポジウム「健康と長寿に向けた食品栄養科学」を企画した。

本シンポジウムでは、日本、台湾、韓国で活躍している若手栄養科学者に、栄養学分野における最新の知見を含めたご講演をしていただく。日本からの講演者は、いずれも、日本栄養・食糧学会奨励賞受賞者である。本シンポジウムは、ハイブリッド開催で、海外からもオンラインで参加できるようにする予定である。

9. 次 第 :

プログラム : (使用言語は英語)

開会の挨拶

吉田 博 (東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座教授、東京慈恵会医科大学附属柏病院病院長、公益社団法人日本栄養・食糧学会会長)

挨拶

Jane C.-J. Chao (台北医学大学教授、台湾栄養学会会長)

Boo-Yong Lee (チャ大学教授、韓国食品栄養科学学会会長)

司会

仲川 清隆 (東北大学大学院農学研究科教授、公益社団法人日本栄養・食糧学会国際交流委員会委員長)

座長

Sung-Soo Park (済州大学校教授、韓国食品栄養科学学会国際交流委員会委員長)

9 : 10 ~ 9 : 30

Translational aspects of brown fat activation by food ingredients

食品成分の褐色脂肪活性化作用と生活習慣病予防

米代 武司 (東京大学先端科学技術研究センター准教授)

9 : 30 ~ 9 : 50

Anti-thrombotic mechanisms of garlic-derived sulfur compounds

ニンニク由来含硫化合物の抗血栓機構

細野 崇 (日本大学生物資源科学部准教授)

座長

熊谷 日登美 (日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授)

9 : 55 ~ 10 : 15

Nutraceuticals and female reproductive disorders

栄養補助食品と女性生殖器疾患

Shih-Min, Hsia (台北医学大学教授)

10 : 15 ~ 10 : 35

Early life nutrition, epigenetics and programming of metabolic disease

幼少期の栄養、エピジェネティクス、代謝性疾患のプログラミング

Fu-Jung, Lin (国立台湾大学准教授)

座長

Yang, Suh-Ching (台北医学大学教授)

10 : 40～11 : 00

Yam-derived exosome-like nanovesicles prevent osteoporosis

山芋由来のエクソソーム様ナノ小胞による骨粗鬆症の予防

Young-Eun Cho (安東大学校准教授)

11 : 00～11 : 20

Food material as a potential candidate for sport nutrition and prevention of sarcopenia スポーツ栄養とサルコペニア予防に資する食品素材の候補

Young Jin Jang (ソウル女子大学校助教)

閉会の挨拶

加藤 久典 (日本学術会議連携会員 (特任)、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授、公益社団法人日本栄養・食糧学会前会長)

10. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「人間・AI 共創時代における価値創造経営教育」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経営学委員会 AI・IT等の普及による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）6月4日（日） 13:30～17:00
5. 場 所：早稲田大学 小野記念講堂(27号館地下2階)
(東京都新宿区戸塚町1丁目103-18)
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本においては、人口減少・少子高齢化、地球環境問題に直面した経済成熟化社会と、Society5.0 やデジタルトランスフォーメーション(DX)に代表される高度情報化社会との中で、組織や企業の経営は、大きな変曲点におかれている。本公開シンポジウムでは、このような社会変革期における組織・企業の経営に対して、広義の経営教育の側面から、新しい経営教育を提案し、AIを含む高度デジタル社会における社会持続性のある価値創造をはかる人材育成や教育方法を討議する。

また、特に産業界、関連官庁等からの活動内容に関するフィードバックをいただき、日本学術会議第26期（2023年10月～）に意思の表出を目指す活動へとつなげる。

9. 次 第：

◇司会

佐々木 郁子（日本学術会議連携会員、東北学院大学国際学部国際教養学科教授）

13:30-13:35 開会の挨拶

高村 ゆかり（日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授）（予定）

13:35-13:55 本分科会活動報告（背景、課題、討議経緯等）

原 良憲（日本学術会議連携会員、京都大学経営管理大学院教授）

13:55-15:15 パネル討論1 「人間・AI 価値共創時代の経営教育」

ファシリテーター：

恩藏 直人（日本学術会議連携会員、早稲田大学商学大学院教授）

パネリスト：

菊地 唯夫（ロイヤルホールディングス株式会社代表取締役会長）

浦川 伸一（損保ジャパン株式会社取締役専務執行役員 CIO）

阪 智香（日本学術会議連携会員、関西学院大学商学部教授）

休憩（10分）（15:15～15:25）

15:25-16:45 パネル討論2 「特定領域（会計・監査・税務）におけるAI・IT・DXの普及と課題」

ファシリテーター：

佐藤 信彦（日本学術会議連携会員、熊本学園大学教授）

パネリスト：

齋藤 貴文（金融庁開示業務室長）－監督官庁としての現状認識と課題

小林 尚明（日本公認会計士協会常務理事）－実務面

齋藤 真哉（日本学術会議連携会員、横浜国立大学教授）－教育面

16:45-16:55 全体討議に関して

椿 美智子（日本学術会議連携会員、東京理科大学教授）

16:55-17:00 閉会の挨拶

野口 晃弘（日本学術会議第一部会員、南山大学教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会、地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
2. 共 催：日本第四紀学会（予定）、島根大学エスチュアリー研究センター
3. 後 援：一般社団法人日本考古学協会、日本旧石器学会、一般社団法人日本人類学会、地球環境史学会(予定)
4. 日 時：令和5年（2023年）6月11日（日）13：00～17：05
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

今よりも暖かかった12万年前の最終間氷期を過ぎると、地球は最終氷期と呼ばれる寒冷な気候に移行しました。ヒト（現生人類）は、この最終氷期にアフリカを離れユーラシアへ、またオセアニアや南北アメリカに広く拡散していきます。日本列島には3万8千年前にヒトが生活していたことがわかっています。

最近の十数年間に、古気候、古環境や人類・考古の研究は大きく進展し、多くの新しい発見がありました。本シンポジウムは、人類はどのように気候変動や環境変動に応答し現在に至ったかを、日本列島を中心に古気候、古海洋、人類、考古の各専門分野の最前線で活躍する人たちが、最新の研究成果とともに概観します。

9. 次 第：

13:00-13:05 開会挨拶・趣旨説明

齋藤 文紀（日本学術会議連携会員、島根大学学長特別補佐、エスチュアリー研究センターセンター長・教授）

13:05-13:25 「過去15万年間の気候変動」

阿部 彩子（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所教授）

13:25-13:45 「現生人類がたどってきた道」

海部 陽介（日本学術会議連携会員（特任）、東京大学総合研究博物館教授）

13:45-14:05 「アイスエイジから現在までの海水準：ヒトは歩いて海峡を渡れたか？」

横山 祐典（東京大学大気海洋研究所教授）

14:05-14:25 「最終氷期における日本周辺の海洋環境」

郭 新宇（愛媛大学沿岸環境科学研究センター長・教授）

14:25-14:35 休憩

14:35-14:55 「年縞から見た「暴れる気候」と人間の歴史」

中川 毅（立命館大学総合科学技術研究機構古気候学研究センター長・教授）

14:55-15:15 「日本列島の現生人類文化の出現、定着、変化」

出穂 雅実（東京都立大学人文社会学部准教授）

15:15-15:35 「古代ゲノムから見た日本列島の現生人類」

太田 博樹（東京大学大学院理学系研究科教授）

15:35-15:45 休憩

15:45-16:05 「樹木年輪から見た年から十年単位の気候変動」

中塚 武（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

16:05-16:25 「縄文・弥生社会の環境構築」

松本 直子（日本学術会議連携会員、岡山大学文明動態学研究所長・教授）

16:25-17:00 総合討論

司会 長谷部 徳子（日本学術会議連携会員、金沢大学環日本海域環境研究センター教授）

出穂 雅実（東京都立大学人文社会学部准教授）

17:00-17:05 閉会挨拶

諏訪 元（日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館・特任教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年
2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「次世代型元素戦略を考える（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）6 月 15 日（木）13：10 ～ 16：50
5. 場 所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所 研究棟 201 号室
（愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38）（ハイブリッド開催予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

本会議は、上記のとおり、日本学術会議化学委員会、同委員会化学企画分科会、分子化学研究所、及び日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における様々な重要課題を取り上げて議論し、報告、提言等を発出してきた。今回は、日本学術会議の学術の中長期研究戦略で化学委員会から応募した「元素戦略」について議論する。資源の枯渇・偏在リスク、産出国による資源の取り込みなどの危機感から化学分野を中心に 2004 年に「元素戦略」の重要性、必要性が世界に先駆けて提唱された。その後、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、経済産業省を中心とした幾つかのプロジェクトを経て、2012 年から文部科学省「元素戦略プロジェクト（研究拠点形成型）」がスタートし、2022 年 3 月に終了した。磁性材料、触媒・電池材料、電子材料、構造材料の 4 拠点を中心に、減量、代替、循環、規制、新機能の 5 つのキーワードのもと、幾つかの革新的材料の創製に成功してきた。しかし、多様な元素の高度利用、新機能創成、元素の再循環という元素戦略の基本理念に立ち返り、「元素戦略」をさらに発展させる必要がある。今回のシンポジウムでは、以上を踏まえ今後の元素戦略について討論する。

9. 次 第：

司会 関根 千津（日本学術会議第三部会員、株式会社住化技術情報センター代表取締役社長）

13:10 挨拶

渡辺 芳人（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所所長）

13:25 趣旨説明

茶谷 直人（日本学術会議第三部会員、大阪大学名誉教授）

13:40 講演「新概念「元素科学」から国家基盤「元素戦略」へー創成期 20 年の成果と今後への期待ー」

玉尾 皓平（公益財団法人豊田理化学研究所所長、京都大学名誉教授）

14:30 講演「元素戦略 2.0～全元素の活用と循環に向けて」

依光 英樹（京都大学大学院理学研究科教授）

15:10 休憩

15:20 講演「今求められる大学発イノベーションと元素戦略」

坂本 修一（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補・内閣審議官）

16:10 総合討論

（司会）所 千晴（日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学研究科教授、東京大学大学院工学系研究科教授）

16:50 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「安全工学シンポジウム 2023」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：一般社団法人日本人間工学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、一般社団法人日本リスク学会、公益社団法人日本冷凍空調学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）6月22日（木）10：00～23日（金）16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂、大会議室、会議室6-A（1）、6-C（1）、（2）、5-C（1）（5室）（ハイブリッド開催）
5つのパラレルセッションで、すべての会場でハイブリッド開催する。
第1室 講堂、第2室（収容人数が多いセッションのため会議室2室を繋げて利用する。）、第3室、第4室、第5室。
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

我が国における安全に関する学際的なシンポジウムとして日本学術会議主催で40年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。2023年度は、第53回として日本人間工学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「VUCAの時代の安全工学」のテーマのもと開催される。共催学会名に見られるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取組の差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会で進めている「カーボンニュートラルリスクフレーム構築」、「安全目標」、「安心感」をはじめとする検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

9. 次第：

【6月22日（木）10:00～16:10】

第1室（講堂）

10:00～10:10 開会式・開会挨拶

10:20～11:50 オーガナイズドセッション

「カーボンニュートラル施策のリスク検討フレーム」

司会 須田 義大（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授）

13:00～14:00 特別講演「VUCAの時代における東日本旅客鉄道株式会社での取り組み（仮）」

小縣 方樹（東日本旅客鉄道株式会社常勤顧問）

14:10～15:40 連携パネルディスカッション

「VUCAの時代の安全工学」

ファシリテータ 芳賀 繁（立教大学名誉教授）

小縣 方樹（東日本旅客鉄道株式会社常勤顧問）

朝川 剛（東京電機大学未来科学部准教授）

他2名

第2室

10:10～11:40 オーガナイズドセッション

「小規模雑居ビルの放火火災に対する安全計画」

司会 原田 和典（京都大学大学院工学研究科教授）

14:10～16:10 オーガナイズドセッション

「工学システムに対するリスク概念の新たな適用と課題」

司会 野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター客員教授）

第3室

10:00～11:30 パネルディスカッション

「COVID-19 リスクガバナンスの教訓～レジリエントな社会制度の再設計」

司会 藤井 健吉（花王株式会社研究開発部門研究戦略・企画部部長）

村上 道夫（大阪大学感染症総合教育研究拠点科学情報・公共政策部門特任教授）

第4室

10:10～11:40 オーガナイズドセッション

「安全の社会性を高める」

司会 桑野 偕紀（有限会社日本ヒューマンファクター研究所代表取締役所長）

14:10～15:40 オーガナイズドセッション

「現場が望む労働者の安全衛生に資する教育」

司会 濱島 京子（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所機械システム安全研究グループ上席研究員）

第5室

10:10～11:40 オーガナイズドセッション

「改めて安全の基本を確認する：温故知新」

司会 小松原 明哲（早稲田大学大学院創造理工学研究科教授）

14:10～15:40 オーガナイズドセッション

「電力需要設備のスマート保安に関する最新動向」

司会 西村 和則（広島工業大学工学部教授）

【6月23日（金）10:00～16:30】

第1室（講堂）

10:00～11:30 オーガナイズドセッション

「安全工学分野におけるリスクリテラシー教育」

司会 鳥居塚 崇（日本大学生産工学部教授）

13:00～14:30 オーガナイズドセッション

「工学システムに対する「安心感」と社会の在り方」

司会 大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授、SIT 総合研究所特任教授、中央大学大学院理工学研究科客員教授）

辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授）

14:10～15:40 オーガナイズドセッション

「地域レジリエンスに資するまちづくり」

司会 長谷川 潤（さいたま市都市局主査）

15:00～15:30 オーガナイズドセッション

「最近の各種発破技術の動向」

司会 久保田 士郎（国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門爆発利用・産業保安研究グループ研究グループ長）

第2室

10:00～11:30 オーガナイズドセッション

「社会安全×AI」

司会 野村 泰稔（立命館大学理工学部環境都市工学科教授）

広兼 道幸（関西大学総合情報学部教授）

13:00～14:30 オーガナイズドセッション

「危機的状況における社会システム信頼性確保の手法と課題（仮）」

司会 有友 春樹（一般財団法人河川情報センター流域情報事業部副参事）

高橋 亨輔（香川大学創造工学部准教授）

15:00～15:30 オーガナイズドセッション

「（仮）AIの信頼性と機能安全」

司会 佐藤 吉信（公益財団法人東京都医療保健協会医療の質向上研究所研究員）

その他、10:00～16:30の間、一般講演9セッション予定

※今後の状況によっては公開シンポジウムを中止・延期・開催方法の変更の可能性あり

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「コロナ感染症をめぐる記録と記憶—何を、誰が、どう残すか—
 (第 28 回史料保存利用問題シンポジウム)」
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会
2. 共 催：日本歴史学協会
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）6 月 24 日（土）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
 一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり（史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会）

8. 開催趣旨：

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ感染症）はさまざまな社会問題を浮き彫りにし、人類社会の変容と課題を考える機会となった。流行が 4 年目に入ったなかで、医療現場や保健所等における活動の記録と記憶をどう残し、どのように継承するのか。また、各地の史料保存利用機関等におけるコロナ感染症をめぐる公文書管理の取組はどうなっているのかなど、関係諸記録・記憶の収集・保全への対応を検証し、未来へ継承するための展望が、今必要である。

そこで、本シンポジウムでは、コロナ感染症をめぐる経験を未来に伝えるための記録や記憶の保存・継承について議論を深めることを目的とし、感染症の歴史やコロナ感染症に伴う社会変容などを念頭に記録や記憶の保存の意義を示す報告、コロナ感染者への対応の最前線にある保健所における活動についての報告、東京都のコロナ感染症をめぐる公文書管理の取組の報告、地域博物館におけるコロナ関係資料の収集の具体的な取組とその成果、課題などの報告の 4 本の報告をお願いした。

現在、日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会では、提言「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料・記録、記憶の保全と継承に向

けて」（仮題）を發出すべく文案を作成しているところである。そこでの議論と連動することによって、本シンポジウムの議論がより深まることが期待できる。

また、共催学協会である日本歴史学協会では、昨年のシンポジウムを受けて、2022年8月4日付で「公文書館法の専門職員に係る附則2の撤廃を求める要望書」を發出したが、アーカイブズ専門職問題に継続的に取り組む観点から、本年度は特別報告として、国立公文書館による認証アーキビスト制度の動向についての報告をお願いした。

9. 次第：

司会：久留島 典子（日本学術会議連携会員、神奈川大学国際日本学部教授）

挨拶

13:30 開会挨拶

若尾 政希（日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授、日本歴史学協会委員長）

13:35 趣旨説明

佐藤 孝之（東京大学名誉教授、日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

13:40 第1報告『コロナ感染症をめぐる記録と記憶－現状と課題－』

飯島 渉（日本学術会議連携会員、青山学院大学文学部史学科教授、感染症アーカイブズ代表）

14:05 第2報告『保健所の新型コロナウイルス感染症対応に係る記録について』

関 なおみ（大田区保健所感染症対策課長、医師）

14:30 第3報告『東京都における感染症記録の保存対応と課題』

工藤 航平（国立歴史民俗博物館准教授）

14:55 第4報告『地域博物館におけるコロナ関係資料の収集について』

持田 誠（北海道浦幌町立博物館学芸員）

休憩（10分）（15:20～15:30）

15:30 特別報告「准認証アーキビストについて（仮題）」

国立公文書館職員（登壇者調整中）

15:50 特別報告質疑

16:00 パネルディスカッション

司会：大友 一雄（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構国文学研究資料館名誉教授、日本歴史学協会国立公文書館特別委員会委員長）

佐藤 孝之（東京大学名誉教授、日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

パネリスト：飯島 渉（日本学術会議連携会員、青山学院大学文学部史
学科教授、感染症アーカイブズ代表）

関 なおみ（大田区保健所感染症対策課長、医師）

工藤 航平（国立歴史民俗博物館准教授）

持田 誠（北海道浦幌町立博物館学芸員）

挨拶

17:25 閉会挨拶

栗田 禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院
教授、日本歴史学協会常任委員）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会及び分科会委員）

日本学術会議中部地区会議学術講演会
『食と健康の最前線』
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
2. 共 催：福井県立大学
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年7月7日（金）13:00 ～ 16:00（予定）
5. 場 所：福井県立大学永平寺キャンパス（福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1）
対面（県大講堂）とZoomのハイブリッドで開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：同日の午前中に中部地区会議実行委員会を開催

8. 開催趣旨：

現代人の大きな関心に食と健康の問題がある。日本の食料自給率は36%程度で先進国とよばれる国の中では最低で、国内の生産者の高齢化のため農業や水産業の持続性自体が危機に陥っている。このような危機的な状況にありながら、高齢化社会の到来とともに食に対する関心は非常に高く、味だけでなく、栄養価、安全性、経済性などもその評価に加わっている。そのため、農学や水産学の分野では、いかに健康価値の高い、収益性のある食品をつくることができるかに、大きな関心が集まっている。そのためには、農学や水産学だけでなく、育種学や遺伝学、さらには栄養学や健康学なども加わり、様々な分野が融合して新しい学問分野を切り開くための研究が進みつつある。本シンポジウムでは、食と健康に焦点をあて、新しい研究の進展を紹介する。

9. 次 第：

- (1) 13:00～13:10 開会挨拶
岩崎 行玄（福井県立大学学長）
- (2) 13:10～13:20 日本学術会議会長挨拶
梶田 隆章（日本学術会議会長・第三部会員、東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所・教授）
- (3) 13:20～13:30 主催者挨拶

池田 素子（日本学術会議第二部会員・中部地区会議代表幹事、名古屋大学大学院
生命農学研究科教授）

(4) 13:30～13:40 科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久（同朋大学学長）

(5) 13:40～16:25 学術講演会

『食と健康の最前線』

・講演 三浦 孝太郎（福井県立大学生物資源学部教授）

・講演 瀧澤 文雄（福井県立大学海洋生物資源学部准教授）

・講演 未定（福井県立大学看護福祉学部（女性の予定））

(6) 16:30 閉会挨拶

松原 宏（日本学術会議第一部会員、福井県立大学地域経済研究所特命教授）

10. 関係部の承認の有無:科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「法科大学院・法曹養成・法学研究者をめぐる学位と資格試験
－いわゆる 3 + 2 制度導入を契機として（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会法曹養成と学術法制分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）7 月 22 日（土）13：00 ～ 18：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

1999（平成 11）年以降の司法制度改革における法曹養成制度の改革として導入された法科大学院制度は、従来は法学部教育とは制度的には連動しない国家による資格試験（そして資格試験合格後の司法研修所における修習）による法曹資格という枠組みから、法科大学院（専門職大学院）修了により司法試験の受験資格を与えることにより、法曹養成につき、学位と資格試験を融合させる側面を有していた。しかし、平成 23 年に導入された司法試験予備試験により、この専門職学位と資格試験の融合には揺らぎが生じ、その揺らぎは時が経つにつれ、ますます大きく成っていた。このような状況の中で、今般、法学部における法曹コース設置および法科大学院最終学年に在学する学生へ司法試験受験資格を与えるということを組み合わせた形（いわゆる 3 + 2 制度）での制度変革がなされた。こうしたいわゆる 3 + 2 制度による変革は、当該ルートでの合格者が増加することにより予備試験ではなく法科大学院修了という学位と資格試験の連動を取り戻し、かつ法学部と法科大学院の協働という側面を持ちつつも、同時に、最終学年の前期途中で司法試験受験資格を与えることにより、法曹資格と法科大学院（専門職大学院）学位取得との実質的連関性のさらなる後退を招きかねない側面もあることは見過ごされてはならない。

法曹養成と学術法制分科会は、日本学術会議第 22 期から 25 期にかけて、法曹養成と学術法制をめぐる問題を扱ってきており、その成果の一部は、2017 年 7 月の分科会主催のシ

ンポジウム「法科大学院時代の法曹養成・法学研究者養成の課題と展望」で提示された。当該シンポジウム、ならびに、より遡り日本学術会議の法学分野で意思表出された（旧）第二部（報告）「法科大学院と研究者養成の課題」（2003年6月24日）および比較法学研究連絡委員会（報告）「諸外国における法学研究者養成制度」（2000年4月24日）をも踏まえ、本シンポジウムは、法科大学院（専門職大学院）の学術体制における意義、法曹養成と法曹資格試験の位置づけ、研究者養成の課題などを包括的に扱うシンポジウムを開催する。

本シンポジウムが開催される時期の2023年7月は、初の在学受験が実施された1週間後である。日本における、法曹養成制度の改革の変遷や現状、法科大学院と法曹養成の在り方、法学部・法科大学院における研究者養成の課題について、比較法学・法史学・法社会学・法哲学という基礎法学の視点を軸とした上で、実定法学、実務法曹の登壇者も加える形で、専門知・学位と資格試験との関係を原理的に問い直し、法科大学院制度自体の意味を再定位することを目指している。

9. 次 第：

挨拶

13:00 開会挨拶

亀本 洋（日本学術会議第一部会員、明治大学法学部教授）

第1セッション「報告」

13:05 『第一部総合司会からオンライン開催についての説明』

浅野 有紀（日本学術会議連携会員、同志社大学大学院司法研究科教授）

13:10 『企画趣旨説明』

山田 八千子（日本学術会議第一部会員、中央大学法科大学院教授、弁護士、東京弁護士会）

13:25 『法曹養成制度の変遷についての実証分析』（仮）

藤本 亮（日本学術会議連携会員（特任）、名古屋大学大学院法学研究科教授）

13:50 『アメリカにおける法学研究者養成—供給源とキャリアパス』（仮）

石田 京子（日本学術会議連携会員、早稲田大学法務研究科教授）

14:15 『西洋法制史における資格試験と学位について』（仮）

田口 正樹（日本学術会議連携会員、東京大学法学政治学研究科教授）

休憩（10分）（14:40～14:50）

第2セッション「報告」

14:50 『日本近代法史における学位と資格試験について』（仮）

岩谷 十郎（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

15:15 『法科大学院・法曹継続教育・学位取得について』（仮）

片山 直也（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

15：40 『実務家の視点からのコメント』
三澤 英嗣（弁護士、東京弁護士会）

15：55 『法哲学者の視点からのコメント』
中山 竜一（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院法学研究科教授）

休憩（20分）（16：15～16：35）

第3セッション 総合討論

第二部総合司会 林 真貴子（日本学術会議連携会員、近畿大学法学部教授）、
山田 八千子（日本学術会議第一部会員、中央大学法科大学院教授、弁護士、東京弁護士会）

16：35 総合討論

挨拶

17：55 閉会挨拶
廣渡 清吾（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「歴史学の「国際化」とは何か」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会国際歴史学会議等分科会
2. 共 催：日本歴史学協会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）7月23日（日）13：30～17：20
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

歴史学は学術である以上、本来、世界に開かれた性格を持っている。とはいえ、今世紀に入ってからの内外の情勢変化のなかで的確に対応していくためには、不断に「国際化」とは何かを吟味していくことが必要である。しかも、それは歴史学の教育・研究の特質に即した議論が求められる。

今後、大学など日本の教育・研究機関では「国際化」をめざした施策がとられている事例も多くなると予想されるが、そのような場合に意義ある提案を行っていく前提としても、今回のシンポジウムでは、歴史学の「国際化」とは何かについて、真剣に問うておきたい。

9. 次 第：

- 司会 浅田 進史（日本学術会議連携会員、駒澤大学経済学部経済学科教授）
- 13:30 開会の挨拶
小関 隆（日本学術会議連携会員、京都大学人文科学研究所教授）
- 13:35 共催団体の挨拶
小澤 弘明（千葉大学理事、日本歴史学協会国際交流特別委員会委員長）
- 13:40 主旨説明
吉澤 誠一郎（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

- 13:45 第一報告「『中国史』は誰のものか？」
飯島 渉（日本学術会議連携会員、青山学院大学文学部史学科教授）
- 14:15 第二報告「歴史学のグローバル化と史料集編纂」
松方 冬子（日本学術会議連携会員、東京大学史料編纂所教授）
- 14:45 第三報告「発信・議論・共同研究：日本における外国史研究者の「国際的」
活動を考える」
菊地 重仁（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）
休憩（15分）（15：15～15：30）
- 15:30 コメント1
栗田 禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）
- 15:45 コメント2
小林 和夫（早稲田大学政治経済学術院准教授）
- 16:00 コメント3
殷 晴（津田塾大学非常勤講師）
- 16:15 総合討論
- 17:15 閉会の挨拶
吉澤 誠一郎（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
- 17:20 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第13回形態科学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、
基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会
2. 共 催：名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経科学研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）8月19日（土）14：00～17：05
5. 場 所：名古屋市立大学病院大ホール（名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
生命科学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、生命科学研究の最前線を分かりやすく解説する。また、第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の生命科学研究を担う人材の啓発に資するものとした。

9. 次 第：

14：00 開会挨拶
渡辺 雅彦（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院医学研究
院教授）

講演1

司会 糸 昭苑（日本学術会議連携会員、東京工業大学生命理工学院教授）

14：05 『複雑な形態の再生メカニズムを解説する』

阿形 清和（大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研
究所長）

休憩（10分）（14：45～14：55）

講演2

司会 門松 健治（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学系研究科教授）

14：55 『再生医療のフロンティアーヒト臓器を創る！ー』

谷口 英樹 (東京大学医科学研究所教授)

休憩 (10分) (15:35 ~ 15:45)

15:45 高校生と研究者の交流会

司会 澤本 和延 (日本学術会議連携会員、名古屋市立大学大学院医学研究科神経科学研究所教授)

参加研究者 阿形 清和 (大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所長)

岡部 繁男 (日本学術会議連携会員、東京大学教授)

門松 健治 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学系研究科教授)

菊池 章 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学系研究科教授)

糸 昭苑 (日本学術会議連携会員、東京工業大学生命理工学院教授)

小林 武彦 (日本学術会議第二部会員、東京大学定量生命科学研究所教授)

塩見 美喜子 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授)

谷口 英樹 (東京大学医科学研究所教授)

月田 早智子 (日本学術会議連携会員、帝京大学先端総合研究機構教授、大阪大学名誉教授)

仲嶋 一範 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学医学部教授)

坂内 博子 (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

吉森 保 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院生命機能研究科教授)

17:00 閉会挨拶

小林 武彦 (日本学術会議第二部会員、東京大学定量生命科学研究所教授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議東北地区会議公開学術講演会
「資源をめぐる新しい情勢および鉱山開発地域との対話」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議東北地区会議
2. 共 催：なし
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和5年9月2日（土）又は9月9日（土）13：00 ～ 16：30
※開催日については、日程調整中
5. 場 所：オンライン開催（後日オンデマンド配信予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：同日11：00～12：00に科学者との懇談会を開催予定

8. 開催趣旨：

資源をめぐる世界の情勢は、金属・エネルギー資源の確保といった問題から、現在のカーボンニュートラル社会の実現やロシアのウクライナ侵攻といった多様な世界的な情勢の変化を受けて、新しい局面を迎えつつある。一方で、鉱山開発による地域住民への影響あるいは労働者との社会的な関連にも配慮した資源開発がますます望まれるようになってきている。本講演会では、最近の資源の問題の変化と最新の情報に加えて、鉱山開発の社会的な側面をそれぞれの専門家から発信し、今後の持続可能な資源利用についてどのような方向性と課題があるかを、参加者とともに考えたい。

9. 次 第：

- 1) 開会挨拶 13:30 ～ 13:40

日本学術会議 会長又は副会長

佐藤 嘉倫（日本学術会議第一部会員・東北地区会議代表幹事、京都先端科学大
学人文学部長・教授）

- 2) 講演 13:40～16:10

13:40～14:10

1. 「カーボンニュートラル社会実現に必要なレアメタル（仮題）」

渡辺 寧（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

14:10～14:40

2. 「ロシアをめぐる資源と政治（仮題）」

稲垣 文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

14:40～15:10

3. 「地熱発電のポテンシャルと開発事例（仮題）」

秋田県内の地熱発電開発企業に依頼

15:10～15:40

4. 「パプアニューギニアにおける資源開発と住民（仮題）」

阿部 和美（二松学舎大学講師）

15:40～16:10

5. 「日本における石炭産業と労働者・家族（仮題）」

嶋崎 尚子（早稲田大学文学部教授）

3) 質疑応答 16:10～16:25

4) 閉会挨拶 16:25～16:30

安達 毅（日本学術会議連携会員、秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

司会進行（予定）

安達 毅

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第12回 JACI/GSC シンポジウム

主催：公益社団法人新化学技術推進協会（JACI）

期間：令和5年6月13日（火）～14日（水）

場所：6月13日（火）オンライン開催、6月14日（水）一橋講堂

参加予定者数：約700名

申請者：公益社団法人新化学技術推進協会 会長 淡輪 敏

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

2. Japan Open Science Summit 2023 (JOSS2023)

主催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所

国立研究開発法人科学技術振興機構

国立研究開発法人物質・材料研究機構(予定)

文部科学省科学技術・学術政策研究所

国立研究開発法人情報通信研究機構(予定)

一般社団法人学術資源リポジトリ協議会(予定)

情報知識学会

合同会社 AMANE 公益社団法人日本地球惑星科学連合

期間：令和5年6月19日（月）～23日（金）10:00～19:30

場所：オンライン開催

参加予定者数：60～250名

申請者：情報知識学会 会長 原田 隆史

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

○今後の予定

●幹事会

第344回幹事会	令和5年	5月11日(木)	(※)	14:30から
第345回幹事会	令和5年	5月25日(木)		14:30から
第346回幹事会	令和5年	6月15日(木)	(※)	14:30から
第347回幹事会	令和5年	6月29日(木)		14:30から
第348回幹事会	令和5年	7月13日(木)	(※)	14:30から
第349回幹事会	令和5年	7月24日(月)		14:30から
第350回幹事会	令和5年	8月10日(木)	(※)	14:30から
第351回幹事会	令和5年	8月29日(火)		13:30から
第352回幹事会	令和5年	9月15日(金)	(※)	13:30から
第353回幹事会	令和5年	9月25日(月)		13:30から

※印の幹事会は、取りやめの可能性あり

●総会